

事例 1

高齢者を見守る配食サービス 【安誠福祉会 × 本庄市社会福祉協議会】

取組概要

安誠園(特養)

- ・お弁当作り
- ・公民館等の拠点まで配達

本庄市社協

- ・全体コーディネート
- ・容器の購入

民生委員、ボランティア

- ・公民館等の拠点から利用者への配達と見守り

配食サービス



見守りが必要な高齢者に配食を通じた見守り

●取組内容

安誠園（特養）と社協、民生委員（一部住民ボランティア）の三者が協力して月1回単身高齢者等への配食サービスを行っています。

安誠園では、市内を8地区に分けて月に8回お弁当作りを行い、1回当たり約40食作ることによって全利用者分に対応しています。

現在の利用者は277名で、月1回の利用者負担は200円です。安誠園では200円を超える部分の費用負担を行っています。



↑実際に配食されているお弁当



↑お弁当を作る様子。担当である管理栄養士を中心に取り組んでいます。

●きっかけ


元々、社協が中心となって高齢者向けの配食サービスを実施していましたが、衛生面の問題から事業継続が難しくなっていました。また、安誠園では特養の強みである食事作りを社会貢献で活かさないかと検討していました。その後、両者が出席していた地域ケア会議において、安誠園が配食の食事作りの部分を担える旨を提案し、協議を重ね、平成30年4月から新たに配食サービスを始めることになりました。

●苦労・工夫したところ

平成30年1月頃から安誠園と社協の担当者及び管理者で調整会議を行い、役割分担等を確認しました。社協は会議と並行して、民生委員との調整も進めました。民生委員から「実際に食べてみたい」との声があり、3月には試食会も実施しました。

また、安誠園ではお弁当に、栄養学を分かりやすく伝える「安誠園通信」を添え、情報発信もしっかり行っています。その他にも、配食スタート後、利用者にアンケートを実施し、その結果をお弁当作りに反映させ、改善を図っています。


安誠園通信


平成30年11月

肌に感じられる風も涼しさから冷たさに変わり、少しずつ冬の訪れを感じる頃になりました。
この時期は栄養と睡眠をとり風邪に負けない免疫力をつけましょう。

低栄養について①
食欲が低下したりしていませんか？
その様な状態が続くと体に必要なエネルギーやタンパク質が足りなくなり栄養不足に陥ります。この状態を「低栄養」といいます。
積極的にエネルギーとタンパク質を摂るように心がけましょう。

エネルギー	・・・	ごはん、パン、麺などに多い
働き	・・・	体力や抵抗力を保つ
タンパク質	・・・	肉、魚、大豆製品などに多い
働き	・・・	元気に動ける筋肉・筋力を保つ



何かございましたら安誠園管理栄養士までご連絡ください
TEL0495-27-0012 (佐藤 岩瀬)

↑安誠園通信

●効果

- 法人 ・ 取組を知った地域の農家が、施設に農作物の寄付をしてくれるようになった。
- 法人 ・ 取組を通じて地域の方とつながることで、職員が孤食という地域課題を考える機会になった。また、地域の方から直接感謝の言葉をもらうことで、モチベーションの向上につながっている。
- 社協 地域 ・ 配食サービスを続けることができ、対象者への見守りを継続できている。
- 地域 ・ 利用者からは、「自分では買い物に行けず材料を揃えることができないので助かる」「月一度を楽しみにしている」といった声がある。



↑拠点でお弁当を受け取る民生委員